

集めて
使う
リサイクル

協会報

特定非営利活動法人／集めて使うリサイクル協会

新春
号

2008.1
Vol.30

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル TEL.06-6209-7155 FAX.06-6209-6685 [東京連絡事務所] TEL.03-3360-1301 FAX.03-3360-7090

発足10周年を迎えて

特定非営利活動法人集めて使うリサイクル協会
代表理事 和田 志津子

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

早いもので「集めて使うリサイクル協会」が発足して10年、NPO法人化して4年目を迎えます。よちよち歩きの協会がここまで進んでこられたのも、会員の皆様のおかげだと感謝いたしております。本当に有り難くお礼申し上げます。

■新たな福祉作業所の仕事づくりを

集めて使うリサイクル協会は、発足当初から関係する企業と障害者作業所と一緒に、いくつものリサイクルシステムを構築してきました。今年10周年を迎え、何かひとつ新しい作業所の仕事起こしが出来ないかと模索中です。昨年施行された障害者自立支援法は、障害者の生活と障害者作業所の経営を守り支援するものとは決して言いがたく、多くの作業所では継続していくために新たな方向性を模索せざるを得ない状況になっています。応益負担により作業所での工賃よりはるかに高額の負担を強いられ、作業所に行けなくなるという障害者の声も聞こえてきます。

以前から紙パック(牛乳パック・酒パック)の回収、紙漉き作業、各種のリサイクルに関わる事業と一緒に進めてきた作業所さんには、何とか確実に収入アップを目指せるような事業の方向を作り上げていきたいと考えています。また、多くの企業さんにはいろいろご協力いただくことになりそうですが、よろしくお願い致します。

■酒パックリサイクルは新たなステップへ

うれしい事もありました。数年前に容器メーカーを中心として立ち上げた「酒パックリサイクル問題研究会」が、多くの酒造メーカーを加えて新しく「酒パックリサイクル促進協議会」として発足しました。事務局は私ども協会が担います。内的な組織作りと会員拡大が当面のテーマですが、5月には総会を開催する予定で、問題の整理と会の方向性を明らかにし、具体的な活動に結び付けていくこととなります。

現在、全国に300余の「エコ酒屋」さんが、酒パックの回収拠点として日々頑張ってくださいています。面白いのは、ビンでの販売が多い酒販店さんがたくさん「エコ酒屋」に登録していることです。そのため、「ビンのリユース・リサイクルも何とかしたい」との声が協会に寄せられることもあります。この問題に関してもいろいろリサーチしていますが、ことごとく回収システムがなくなっている状況からして、狭い範囲でも何とか地域循環の回収システムが再構築できないかと考えています。

■パックマークのさらなる認知度アップを

古紙価格は、国際的にパルプの値段が高騰しているために国内価格も落ち着きません。したがって再生紙のメーカーさんからは、原料確保の面から牛乳パックを手に入れたという要望も多く寄せられます。パックマーク企業とともに、今まで以上に効率的で安定的なリサイクルシステムを構築していくことが必要となります。パックマークのさらなる認知度アップとグリーン購入の促進は、ともに継続して力を入れていきたい当協会の本来事業です。

また、市民生活に直接関わる「自治体のごみ有料化」に関する、地球環境基金の助成事業が今年2年目を迎えています。今年度は各都道府県の調査を中心に進めており、年度末には報告書として皆様のお手元にお届けできると思います。

私ども協会には、さまざまな企業と市民が集まっています。「集めて使うリサイクル」は私どもの理念でもあります。環境問題はリスクの共有化が大切と考え、1人ひとり、1社1社をつなぐ活動をさらに進めていくべく、新年を迎え心新たにしております。本年も変わらずご指導、ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

賀
正

旧年中は大変お世話になりました。ありがとうございます。本年もよろしくお引き立てのほどお願い申し上げます。

二〇〇八年一月一日

特定非営利活動法人

集めて使うリサイクル協会

事務局 一同



エコプロダクツ2007に出展

昨年12月13日(木)～15日(土)東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ2007に、例年通りブース出展を行いました。3日間で約16万5000人の来場者があり、小学生から専門的な企業担当者まで幅広い層を受け入れ、年々規模拡大している数少ない環境展と言えます。

集めて使うリサイクル協会では、印刷工業会とともに進めているアルミ付飲料用紙容器リサイクルプロジェクトのパネル展示や酒パックリサイクル品の展示、また製紙工場から出る酒パックの製紙残渣から有効利用するために抽出したアルミ等の展示で来場者に活動を訴求しました。

また今回は、昨年9月に設立された酒パックリサイクル促進協議会についても情報発信し、メンバーの酒造メーカー数社もブースを尋ねてきていただきました。

まだまだアルミパックのリサイクルが充分認知されていない現状では、協会としては今後もあらゆる機会を捉えて情宣活動を強めて行きたいと考えています。



酒パックリサイクル促進協議会から

専門部会（調査部会・広報部会）を設置

酒促進協では、会員各社が具体的に活動に参加し、当面の課題に機敏に取り組んで行くため専門部会を設け活動していくことになりました。酒パックリサイクルの現状を数的に明らかにしていくための「調査部会」と、今後に向け各社統一した情報発信をしていくための「広報部会」の2つの専門部会が誕生しました。

また伏見エリアでは、酒造メーカーが協同で工場の充填損紙をリサイクルできないかという問題から、地域全体のリサイクルシステムを模索するテーブルが作られ、誕生間もない酒パックリサイクル促進協議会としての酒造メーカーの主体的リサイクル活動が動き出しました。

今後の展開や他地域への波及が期待されます。

地球環境市民大学校「環境NGOと市民の集い」に参加

★地球環境基金助成事業実施団体が活動をアピール

12月1日、大阪市の「エル・おおさか」で、「地球環境市民大学校 環境NGOと市民の集い」が開催されました。この催しは、地球環境基金を運営する独立行政法人環境再生保全機構が主催するもので、毎年1回、地球環境基金の助成事業を実施している市民団体がその活動内容を市民の皆さんにアピールすることを主な目的として開催されています。当協会でも、「ごみ有料化を恒常的なごみ減量と古紙リサイクル促進につなげるための調査と実践」をテーマに助成事業を実施している団体として、発表を行いました。

プログラムは、第1部のシンポジウム「今だ！止めよう温暖化 市民とNGOは何をすべきか」、第2部の取り組み発表会「見たい！聞きたい！話したい！環境NGOってどんな活動しているの？」の2部構成。第2部は5つの分科会に分かれて行われ、当協会は第5分科会「温暖化防止／持続可能な社会システムをつくるNGO活動」に参加しました。当日はインドネシア・バリ島でのCOP13（国連気候変動枠組み条約第13回締結国会議）の開催を控えていたこともあってか、温暖化の問題に関心を寄せる市民が数多く参加し、第5分科会は大盛況となりました。

★「できることからごみ減量に取り組みたい」と参加者

「家庭ごみの有料化」をテーマとする当協会の活動も、生活に密着した環境活動として、また脱・温暖化に向けた最も身近な取り組みとしても、参加者の皆さんに興味を持って聞いていただいたようです。各発表者には、参加者の方々から感想や意見を書いたメッセージカードがプレゼントされました。その一部を次にご紹介します。

- ・ごみ有料化に対する調査がとても興味深かったです。特に、袋の値段の違いによる減量効果の差や、複数の施策を組み合わせる自治体で効果が上がっているという結果は分かりやすいですね。こんな結果を自治体に向けて働きかけることが大切だと思いました。
- ・小さな積み重ねの重要性を改めて認識しました。
- ・市の廃棄物減量審議会に市民委員として参加しました。委員会でアイデアを出し合い対策を提言する会であると思いましたが、実際は有料化ありきで委員会が進められ、失望したことを覚えています。今後は各自治体に、有料化以外の方策もぜひ提言いただきたく思います。
- ・ごみ減量には分別の徹底が役立つと改めて知りました。また、住民のコミュニティ組織が良いとさらにごみ減量化が進むのだと感じました。
- ・私の実家でも有料化されて45%の袋が45円になりました。初めは袋がもったいなくてごみを減らしましたが、そのうち慣れてきて元に戻ってしまいました。単に有料化だけしてもだめという話に納得しました。
- ・ごみを減らしていき、それでも出るごみについてはできるだけ再利用、リサイクルできるような仕組みを、できることから広めていくことができればいいなと思います。
- ・ごみのリサイクルは、回収する側が分別をきちんと訴えかけていけば捨てる側にまで声が届き、意識が変わります。やればできる！

今年度の地球環境基金助成事業

家庭ごみ有料化に関する都道府県アンケート調査などを実施

今年度は、「ごみ有料化を恒常的なごみ減量と古紙リサイクル促進につなげるための調査と実践」の2年目として、都道府県に対するアンケート調査、家庭ごみ有料化自治体事例集の作成、大阪における古紙リサイクル実験などを実施しています。事例集については、有料化によって目覚ましいごみ減量効果を上げた自治体、特色のある有料化の仕組みを構築している自治体などを中心に、全国のヒアリング調査を行っているところです。年度末には冊子にまとめる予定ですので、楽しみにお待ちください。

また、大阪の古紙リサイクル実験については、地域の住民団体や福祉施設、学校などの協力を得て、これまでごみとして捨てられていた雑古紙を集団回収の1品目に加えるなどの試みを行っています。今年度の取り組みを踏まえて、来年度はより実践的な成果を上げられるよう事業を組み立てていきたいと考えています。

◆ 1世紀以上の歴史を誇る紙の専門商社

(株)竹尾は、1899年の創業以来、悠久の歴史が育んだ「紙」の温もりを未来へ伝えることを使命として、さまざまな商品の開発と新たなマーケットの開拓に努めてきました。

特に、紙自身の特徴である色・風合い・模様を施した「ファインペーパー」の開発と提供に力を注ぎ、独自のオリジナル商品を生み出すとともに、「ファインペーパー」に限らず印刷用紙・情報用紙等においても幅広く顧客ニーズに応える商品を提供し続けてきました。

その結果として、2005年にはデザインの感性を経営と商品に活かし、独自の経営理念・哲学を確立している企業・経営者に贈られる「デザイン・エクセレント・カンパニー賞」を受賞。また、AERA DESIGN「ニッポンのデザイナー100人」に企業の1社として選ばれるなど、高い評価を得ています。

【企業DATA】

- 会社名 株式会社 竹尾
- 本社所在地 東京都千代田区神田錦町 3-12-6
- 代表者 取締役社長 竹尾 稠
- 創業 1899 (明治 32) 年 11 月
- 資本金 3 億円
- 従業員 263 名 (2007 年 4 月 30 日現在)
- URL <http://www.takeo.co.jp>

◆ 紙の情報センター『見本帖本店』を運営

同社は2000年、実践的な紙の情報センターとして、千代田区神田錦町に『見本帖本店』をオープンしました。すでに1989年には渋谷区神宮前に『青山見本帖』をオープンしています。『見本帖本店』では特に「紙のことを1人でも多くの方にもっとよく知っていただきたい」「クリエイター・印刷業者・紙商社・一般ユーザー・クライアントの皆様と、より良い交流の場をつくりたい」という2つの願いを込めて開設されたものです。

1階のショップでは、3000種類の紙をシステムチックに探し出して購入することができ、2階では、紙と印刷や加工などの疑問にお答えする情報の収集・発信基地として、紙の魅力をアピールしています。

◆ 牛乳パック 100%の印刷用紙「エムシーレフォルム 100GA」

(株)竹尾の牛乳パック再利用マーク(パックマーク)商品は、「エムシーレフォルム 100GA」とい

「カートン」の

のとおり、牛

無蛍光であ

がり considers

用紙です。市

からは、これ

れてきました

印刷用紙はこれ

です。

同社では

100GA」の商

のように説明

「針葉樹材パルプの比率が高く、繊維が長い

ために、しっかりとした紙質になります。もともと無蛍光で、使用条件からも不純物が少なく、印刷もされていないので、蛍光染料を混ぜなくても、高い白色度が得られます。さらには、きびしい基準を満たしている工場で、使用済みミルクカートンはふたたびパルプ化されますので、十全なトレーサビリティがあります。」

訂正とお詫び

■株式会社竹尾 「エムシーレフォルム 100GA」(日清紡徳島工場 製造)

メーカー発表の古紙配合率 100% → 実配合 50~55%

企業と商品の紹介の中で、メーカーからの情報をもとに、牛乳パック100%と記載しておりました。実際は50%のバージンパルプ使用があったとことが判明し、ここで改めて訂正の上お詫びさせていただきます。関係各位には大層ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

会員募集中!

入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私たちの仲間になってください!

会員区分	年会費(非課税)
団体	正会員 60,000円
	賛助会員 10,000円
個人	正会員 6,000円
	賛助会員 1,000円

●「協会報」では、会員企業各社の環境活動や環境保全型商品の紹介を行っています。どんどん情報をお寄せください。

Eメール info@r-kyokai.org HP <http://www.r-kyokai.org/>